

佐世保市水道工事標準仕様書

平成 3 1 年 4 月

佐世保市水道局

目 次

I 共通編

1 総 則	3
1. 1 一般事項	
1. 1. 1 適用範囲	3
1. 1. 2 法令等の遵守	3
1. 2 安全管理	
1. 2. 4 事故防止	4
1. 2. 7 現場の衛生管理	4
1. 3 工事用設備等	
1. 3. 3 工事現場標識等	5
1. 4 工事施工	
1. 4. 1 一般事項	5
1. 4. 2 事前調査	5
1. 4. 8 建設副産物	5
1. 4. 12 工事記録写真	5
1. 4. 14 工事関係書類の整備	5
2 材 料	6
2. 1 材料一般	
2. 1. 1 材料の規格	6
2. 3 発生品	
2. 3. 1 発生品	6
3 工 事	6
3. 1 施工一般	
3. 1. 1 一般事項	6
3. 2 土工事	
3. 2. 1 掘削工及び切取工	7
3. 2. 2 埋戻工及び盛土工	7
3. 2. 3 残土処理	7

II 管布設工事編

4 管布設工事	8
4. 1 施工一般	
4. 1. 3 掘削工	8
4. 1. 6 残土処理	8
4. 1. 9 配管技能者	8
4. 1. 10 管の据付け	8
4. 1. 11 管の接合	9
4. 1. 13 既設管との連絡	9
4. 1. 19 水圧試験	9
4. 1. 20 埋戻工	9
4. 1. 30 ポリエチレンスリーブ	9
4. 1. 31 管明示工	10
4. 1. 32 通水準備工	10
4. 2 ダクタイトル鉄管の接合	
4. 2. 12 フランジ形の接合	11
4. 2. 13 G×形ダクタイトル鉄管 の接合	12
4. 6 制水弁等付属設備設置工事	
4. 6. 3 消火栓設置工	13
5 道路復旧工事	13
5. 1 施工一般	
5. 1. 1 一般事項	13
5. 1. 3 路盤工	14

朱書きは、今回の改訂箇所を表す。

別冊の付6「水道工事設計標準図」及び付7「継手チェックシート」を参考にし、施工時に使用する。

※空番の項目は、(社)日本水道協会発行の「水道工事標準仕様書(最新版)」を引用すること。

※佐世保市水道工事標準仕様書の取扱いについて

本市水道工事標準仕様書の項目番号は、(社)日本水道協会発行の水道工事標準仕様書【土木工事編】(2010年版)の項目番号と整合させている。

よって空番の項目は、(社)日本水道協会の水道工事標準仕様書を引用することとし以下に記載していない事項については、(社)日本水道協会発行の水道工事標準仕様書(最新版)に基づき、適切な施工にあたること。

I 共 通 編

1 総 則

1. 1 一般事項

1. 1. 1 適用範囲

1. この佐世保市水道工事標準仕様書(以下「仕様書」という。)は、発注者が請負により施工させる**管布設工事、施設工事、各種工事**に適用する。
4. 工事の施工にあたり受注者は、次にあげる順位に従い、その内容に基づき適切な施工を行うこと。
 - (1) 工事請負契約約款
 - (2) 工事施工特記仕様書
 - (3) 佐世保市水道工事標準仕様書
 - (4) 佐世保市水道工事施工管理基準書
 - (5) (社)日本水道協会 水道工事標準仕様書
 - (6) 長崎県建設工事共通仕様書(佐世保市読替版)
 - (7) 長崎県建設工事施工管理基準(佐世保市読替版)

1. 1. 2 法令等の遵守

工事の施工にあたり受注者は、次に掲げる法律及びその他関係法令・条例・規則等を遵守すること。(参考：関係法令等)

建設業法・道路法・道路交通法・労働基準法・労働安全衛生法・職業安定法・労働者災害補償保険法・騒音規制法・振動規制法・河川法・港湾法・消防法・文化財保護法・中小企業退職金共済法・水質汚濁防止法・廃棄物処理及び清掃に関する法律・火薬類取締法・毒物及び劇物取締法・労働安全衛生規則・酸素欠乏症等防止規則・建設工事公衆災害防止対策要綱・水道法・環境基本法・大気汚染防止法・資源の有効な利用の促進に関する法律・下請代金支払遅延等防止法・建設労働者の雇用の改善等に関する法律・建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律・土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法・特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律・道路運送法・道路運送車両法・雇用保険法・健康保険法・最低賃金法・地すべり等防止法・湖沼水質保全特別措置法・公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律・労働保険の保険料の徴収等に関する法律・公共工事の品質確保の促進に関する法律・警備業法・行政機関の保有する個人情報保護に関する法律・佐世保市水道条例など

なお、これら諸法規の運用適用は、受注者の負担と責任において行う。

1. 2 安全管理

1. 2. 4 事故防止

1. 受注者は、工事の施工に際し、建設工事共通仕様書等で示されている**土木工事安全施工技術指針・建設機械施工安全技術指針・港湾工事安全施工指針・建設工事公衆災害防止対策要綱（土木工事編）・建設産業における総合的な安全確保に関する指針等**に基づき、公衆の生命身体及び財産に関する危害・迷惑を防止するために必要な処置をする。
6. 埋設物に接近して掘削する場合は、周囲の地盤の緩み・沈下等に十分注意して施工し、必要に応じて**当該埋設物管理者と協議のうえ、防護処置**を講ずる。

また、掘削部分に他の埋設物が露出する場合には、当該埋設物管理者と協議のうえ適切な表示を行ない、工事従事者にその取扱い及び緊急時の処置方法・連絡方法を熟知させておく。

1. 2. 7 現場の衛生管理

浄水場（稼動中のもので、配水場その他これに準ずる箇所を含む）構内で行う工事に従事する者は、**関係法令を遵守し、特に衛生管理に注意する。監督職員の指示がある場合は、保健所等の検査資格を有する機関の発行した健康診断書を提出する。**

1. 3 工事用設備等

1. 3. 3 工事現場標識等

1. 工事現場には見やすい場所に、工事件名・工事箇所・期間・事業所名・受注者の住所・氏名・電話番号を記載した工事標示板・その他所定の標識を設置する。

1. 4 工事施工

1. 4. 1 一般事項

7. 施工上、原寸図または詳細図等を必要とする場合は、作成の際、発注者の承諾または確認を受けなければならない。

1. 4. 2 事前調査

1. 受注者は、工事に先立ち、施工区域全般に亘る地下埋設物の種類・規模・埋設位置・境界杭等をあらかじめ試掘その他により確認しておく。

1. 4. 8 建設副産物

8. 切断機械から発生するブレード冷却水と切削粉が混じりあった排水については、排水吸引機能を有する切断機械等で回収することとし、回収された排水については、当該工事の建設副産物特記仕様書に基づき、適切に処理する。

1. 4. 12 工事記録写真

1. 受注者は、工事全般に亘り工事過程を段階的に撮影・編集し、監督員が随時点検できるように行ない、写真帳として工事完成の際、提出する。
2. 既存構造物その他・撤去・取壊し等を行うものの現況を撮影する。
3. 施工後、外部からの検査が困難な箇所は、原則として詳細を撮影する。
4. 工事記録写真は、佐世保市水道工事施工管理基準書 4 工事写真撮影基準に準ずる。

1. 4. 14 工事関係書類の整備

1. 受注者は、随時監督員の点検を受けられるよう、工事に関する書類を常に整理しておく。

2. 受注者は、指定期日までに発注者の定める様式で、工事に関する主な提出書類一覧表（佐世保市ホームページ記載）により、書類を提出する。
ただし、監督員が特に必要と認めた書類については、別途提出すること。

2 材 料

2. 1 材料一般
2. 1. 1 材料の規格

工事に使用する材料は、設計図書に品質規格を規定された物を除き、日本工業規格（以下「JIS」という。）・日本農林規格（以下「JAS」という。）・日本水道協会規格（以下「JWWA」という。）・長崎県建設工事共通仕様書（佐世保市読替版）等に適合したもの。

2. 3 発生品
2. 3. 1 発生品

1. 工事施工により生じた管弁類等の現場発生品について、切管の場合、スクラップとして、受注者が処分すること。また、撤去品については、監督員の指示に従い処理すること。

3 工 事

3. 1 施工一般
3. 1. 1 一般事項

5. 段階確認は長崎県建設工事共通仕様書（佐世保市読替版）に準ずるものとし、管布設工事については、設計図書に定めるもののほか、材料検査、床掘、碎石基礎、栗石基礎及び水圧試験において段階確認を受けるものとする。

3. 2 土工事

3. 2. 1 掘削工及び切取工

佐世保市水道工事施工管理基準書 ・ 長崎県建設工事共通仕様書（佐世保市読替版）に準ずる。

3. 2. 2 埋戻工及び盛土工

佐世保市水道工事施工管理基準書 ・ 長崎県建設工事共通仕様書（佐世保市読替版）に準ずる。

8. 埋設管（既存管を含む）の真上付近での転圧は、管に損傷・影響を与えないよう十分に注意する。
9. 埋戻し材は、機械または人力にて投入し、ダンプトラックより直接投入をしない。

3. 2. 3 残土処理

1. 残土は、建設副産物対策と建設工事公衆災害防止対策要綱に基づき、指定された処分地で適正に処理する。

Ⅱ 管布設工事編

4 管布設工事

4. 1 施工一般

4. 1. 3 掘削工

- 1 1. 既設管付近及び仮設管の撤去において、掘削を行う場合、**管頂部 10 c m以下の部分については人力掘削とする。**

4. 1. 6 残土処理

3. 舗装の切断作業時に発生する排水の処理については、1. 4. 8 建設副産物の処理による。

4. 1. 9 配管技能者

5. **配管技能者**は、水道用各種管の配管作業について、豊富な経験と技術を有すること。

6. **ダクティル鑄鉄管 N S 形継手、ダクティル鑄鉄管 G X 形継手、水道配水用ポリエチレン管融着継手**については、下記の資格を有する配管技能者を配置する。

管種／継手	配管技能者の資格
ダクティル鑄鉄管／N S 形継手 (500mm 以上)	(社) 日本水道協会 大口径管登録
ダクティル鑄鉄管／N S 形継手 (500mm 未満)	(社) 日本水道協会 耐震登録
ダクティル鑄鉄管／G X 形継手	(社) 日本水道協会 耐震登録
水道配水用ポリエチレン管／融着継手	配水用ポリエチレンパイプシステム協会 受講証

なお、特記仕様書に配管技能者の資格について記載がある場合は、それを優先する。

4. 1. 10 管の据付け

6. 直管の継手箇所角度をとる曲げ配管は、原則的に行わない。ただし、現場状況によりやむなく施工上必要な場合は、**監督員の指示**を受けること。
9. 管の据付けは、管に影響を与えないよう床付け面を入念に仕上げ、必要に応じ**敷き砂等**の処置を行う。

4. 1. 1 1 管の接合

1. ダクタイル鋳鉄管の接合（K形、T形、U形、KF形、UF形、SⅡ形、NS形、S形、US形、フランジ形、GX形）については、4.2 ダクタイル鋳鉄管の接合による。

4. 1. 1 3 既設管との連絡

2. 連絡工事箇所は、監督員との立会い後速やかに**試掘調査**を行ない、連絡する既設管（位置・管種・管径等）及び他の埋設物の確認を行う。
9. 既設管の**切断箇所・切断開始時**については、監督員の指示による。
10. 既設管との連絡は、既設管を十分に清掃し連結する。

4. 1. 1 9 水圧試験

3. 水圧試験は、布設した管種・口径により方法が異なるため、現場に適合した試験を行い、監督員と協議し決定すること。また、**水圧は設計水圧とし、0.1Mpaを超える水圧の低下が見られる場合は、再度実施する。**
4. 水圧試験は、監督員の立会いのもで行う。
5. 水圧試験の結果は、**試験年月日・試験水圧・実施時間ごとの水圧等、各項目の報告書**を作成し、監督員へ提出する。

4. 1. 2 0 埋戻工

3. 埋戻しは、片埋めにならないように注意しながら、**厚20cm毎**に敷き均し、現地盤と同程度以上の密度になるように締め固めを行う。
8. 管の下端・側部及び埋設物の交差箇所の埋戻し・突き固めは入念に行ない、沈下が生じないようにする。

4. 1. 3 0 水道用ダクタイル鋳鉄管用ポリエチレンスリーブ

2. スリーブの被覆

- (7) スリーブはダクタイル鋳鉄管、仕切弁、消火栓及び空気弁に被覆するものとし、被覆方法は付編の水道工事設計標準図 1-1-2 ポリエチレンスリーブ被覆工のとおりとする。また、水道配水用ポリエチレン管及び耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管等に使用するメカ継手（冷間継手を除く）にもポリエチレンスリーブを被覆するもの

とする。

4. 1. 3 1 管明示工

1. 管明示テープ

管明示テープは、布設する年号のテープを下記の要領で正確に貼り付けること。

- ・ 1本あたりの管長が4.0m以下の場合 3箇所／本
- ・ 1本あたりの管長が5.0mまたは6.0mの場合 4箇所／本

また、管の胴巻きは、1周半巻きとする。

ただし、口径50mm以下については、胴巻きは不要とする。

2. 管明示シート

管明示シートは、指定された道路等に布設する管路上に使用し、埋戻しの際、土被りの半分の深さに埋設する。ただし、路盤（上層／下層）の中に埋設しないこと。

4. 1. 3 2 通水準備工

1. 通水に先立ち、原則として全延長に亘り管内（仮配管含む）を十分清掃し、**継手部の異物の有無・塗装の状態等**を調べ、最後に**残存物が無い**ことを確認する。
2. 通水に先立ち、仕切弁・空気弁・消火栓・排水（ドレン）弁等の開閉操作を行ない異常の有無を確認する。また、空気弁については、ボールの密着具合を確認し、**鉄蓋の開閉・ガタツキ**についても確認する。
3. 放流先の検討・調査を行ない、必要に応じて**土砂等の除去・清掃**を行う。
4. 通水は、次の要領により行う。
 - （1） 既設管と連絡し通水する場合は、**監督員の立会い**のもで行う。
 - （2） 新設管は、布設した**管内流量の3倍程度**の水道水で管内を洗浄後、排水を中止し、監督員が**指示する時間**（通常24時間）まで静置後、**濁度**（2度以下）・**色度**（5度以下）・**臭気**（異常なし）・**pH値**（5.8～8.6）・**残留塩素濃度**（0.1mg/L）を測定し、水質基準に適合しなければならない。
適合しない場合は、再度前記の洗浄排水を繰り返す。
 - （3） 前記の方法で水質基準に適合しない場合は、**監督員の承諾**を得て塩素水での消毒を行う。

4. 2 ダクタイル鋳鉄管の接合

4. 2. 1 2 フランジ形ダクタイル鋳鉄管の接合

1. ボルトとフランジ及びナットとフランジの間にステンレス製平ワッシャーを使用するものとする。
2. フランジ面、ボルト・ナット、平ワッシャー及びガスケットを清掃し、異物を確実に除去する。
3. ガスケットは、管心をよく合わせ、ずれが生じないようにシアノアクリレート系接着剤等で仮止めする。ただし、酢酸ビニル系接着剤・合成ゴム系接着剤は、ガスケットに悪影響を及ぼすので使用してはならない。
4. 全周均等にボルトを取り付け、相互のフランジ面を合わせる時に、ガスケット面を傷つけないように、あて木等を用いる。
5. ボルトの締付けは、K形ダクタイル鋳鉄管の接合と同様に、片締めにならない様ガスケットの位置及びボルト穴に注意しながら仮締めを行ない、次にガスケットが均等に圧縮されるように追い締めを行う。

なお、締付けトルクは、下記（日本ダクタイル鉄管協会：フランジ形ダクタイル管 接合要領書 P 5・P 11 参照）のとおりとする。

また、締付けトルクの管理は、様式の各種「継手チェックシート」を使用し、整理を行ない、提出すること。

「R F 形（大平面座形）フランジの締付けトルク」

管 径：φ（mm）	トルク（N・m）	ボルトの呼び
75 ～ 200	60	M16
250 ・ 300	90	M20
350 ・ 400	120	M22
450 ～ 600	180	M24
700 ～ 1200	330	M30
1350 ～ 1800	500	M36

「G F 形（溝形）フランジの締付けトルク」

管 径：φ（mm）	トルク（N・m）	ボルトの呼び
すべて	60	すべて

5. フランジ面が、平行に偏りなく接合されていること及びガスケットのずれが無いことを目視で確認する。また、G F 形フランジの場合、隙間ゲージにより全週4箇所

所の等間隔位置のフランジ間のすきまを確認する。

この場合、フランジ間には1mmの隙間ゲージが入ってはならない。

4. 2. 13 G X形ダクティル鉄管の接合

G X型継手はN S形継手と同様に免震的な考え方に基づいた耐震性能を有する継手である。

1. G X形直管の接合（呼び径75～250）

- (1) 挿し口外面の端から約30cmの清掃と受口内面を清掃する。
- (2) ロックリングとロックリングホルダが正常な状態にあるかを確認する。
- (3) 清掃したゴム輪（G X形用）を受口内面の所定の位置にセットする。
- (4) ゴム輪の内面と挿し口外面のテーパ部から白線（挿し口に近い方）までの間、滑材を塗布する。なお、滑材は4.2.2継手用滑材に適合するダクティル鉄管のものを使用し、グリース等の油類は絶対使用しない。
- (5) 管を吊った状態で管芯を合わせて、レバブロックを操作して接合する。
- (6) 受口と挿し口のすき間にチェックゲージを差し込み、ゴム輪の位置を確認する。
- (7) 接合作業は、その都度必要事項をチェックシートに記入しながら行う。

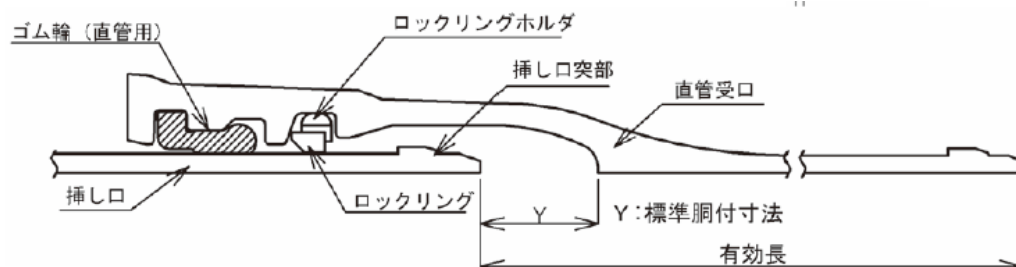


図-4.2.17 G X形直管

2. G X形異形管の接合（呼び径75～250）

- (1) 挿し口外面の清掃と受口内面を清掃する。
- (2) ロックリングとストッパが正常な状態にあるかを確認する。
- (3) 押輪およびゴム輪を挿し口へセットする前に、異形管受口端面から受口奥部までの、のみ込み量の実測値を測定し、挿し口外面全周（または円周4箇所）に白線で明示する。
- (4) 清掃した押輪、ゴム輪を挿し口に押輪、ゴム輪の順に預ける。（異形管のゴム輪は直管のゴム輪と形状が異なるので使用する前に確認する）
- (5) ゴム輪の外面および受口内面に滑材（ダクティル鉄管継手用）をムラなく塗布す

る。

- (6) 管を吊った状態で管芯を合わせて、挿し口を受口に預ける。挿し口先端が受口奥部に当たるまでゆっくりと挿入する。(3) で明示した白線が、受口端面の位置まで全周にわたって挿入されていることを確認したら、ストッパを引き抜く。
- (7) 管を吊った状態で、挿し口もしくは受口を大きく上下左右前後に振り、継手が抜け出さないことを確認する。
- (8) ゴム輪を受口側へ寄せ、T 頭ボルト・ナットをセットし、インパクトレンチなどで締め付ける。締め付けは押輪の施工管理用突部と受口が接触（メタルタッチ）するまで行う。締め付け完了後、隙間ゲージ（厚さ 0.5 mm）を用いて隙間がないことを確認する。
- (9) 接合作業は、その都度必要事項をチェックシートに記入しながら行う。

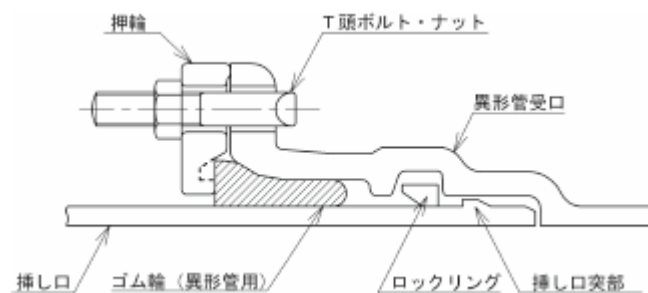


図-4.2.18 G X 形異形管

4. 6 制水弁等付属設備設置工事

4. 6. 3 消火栓設置工

- 3. 消火栓の取付けにあたり、地表面と消火栓の弁棒キャップ天端との間隔を、 $20\text{ cm} \pm 5\text{ cm}$ となるようにフランジ短管により調整する。また、補修弁の操作ができるように、室を設置すること。

5 道路復旧工事

5. 1 施工一般

5. 1. 1 一般事項

道路復旧工事は、この仕様書及び道路管理者の仕様書や指示条件による他、日本道路協会の「アスファルト舗装工事共通仕様書解説（改訂版）」・「舗装設計施工指針」・

「舗装施工便覧」・「舗装の構造に関する技術指針・同解説」・「長崎県建設工事共通仕様書（佐世保市読替版）」等に準拠して施工する。

5. 1. 3 路盤工

1. 路盤工一般

（４）各路盤の締固め後の一層の仕上がり厚は、表－5.1.1 を標準とする。

表－5. 1. 1

路 盤	仕上がり厚
砂路盤層	20cm 以下
碎石マカダム層	20 "
クラッシャラン層（上層路盤）	15 "
クラッシャランスラグ層	20 "
セメント安定処理層（下層路盤）	30 "
粒度調整碎石層及び粒度調整スラグ層	15 (20) "
セメント安定処理層（上層路盤）	20 (25) "
アスファルト安定処理層	10 "

ただし、粒度調整路盤材及びセメント安定処理層（上層路盤）の締固めに振動ローラを使用する場合には、仕上がり厚の上限をカッコ内の数値（20 cm、25 cm）とすることができる。

※ 本書 佐世保市水道工事標準仕様書は、平成 **31** 年 4 月 1 日より適用する。

「（社）日本水道協会：水道工事標準仕様書【土木工事編】2010版 参照」

改訂履歴

版数	発行年月
初版	平成 21 年 4 月
第二版	平成 26 年 4 月
第三版	平成 29 年 4 月
第四版	平成 31 年 4 月

佐世保市水道工事標準仕様書（付編）

付 6. 水 道 工 事 設 計 標 準 図

付 7. 継手チェックシートについて

平成 3 1 年 4 月

佐世保市水道局

水道工事設計標準図

佐世保市水道局

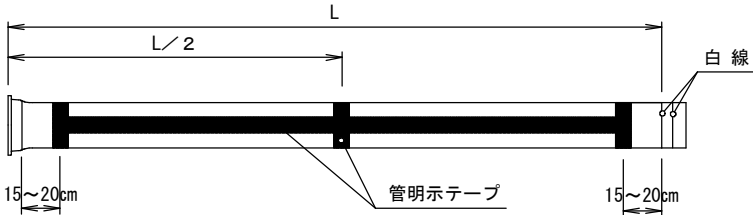
この水道工事設計標準図(以下「標準図」という。)は、発注者が請負により施工する各種工事に適用する。施工条件等により、この標準図によりがたい場合については、監督職員の承諾を得て規格・形状等の変更を行うものとする。また、この標準図で規定していない項目については、設計図書又は監督職員の指示によるものとする。

目 次

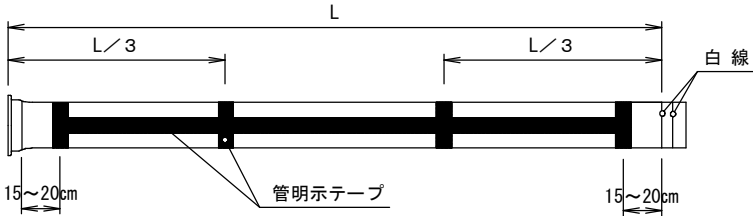
【 1. 一 般 施 工 】	(図 番)
1-1. 管布設標準図	
管明示テープ工・管明示シート工	1 - 1 - 1
ポリエチレンスリーブ被覆工	1 - 1 - 2
【 2. 付属施設工(各種弁設置・弁室等) 】	
2-1. 水道用仕切弁設置標準図	
土被り 0.6m ϕ 75～ ϕ 100(浅層埋設型仕切弁)	2 - 1 - 1 改訂
土被り 0.6m ϕ 150～ ϕ 250(浅層埋設型仕切弁)	2 - 1 - 2 改訂
土被り 0.8m ϕ 75～ ϕ 150(浅層埋設型仕切弁)	2 - 1 - 3 改訂
土被り 0.8m ϕ 200～ ϕ 250(浅層埋設型仕切弁)	2 - 1 - 4 改訂
土被り 0.8m ϕ 300 (浅層埋設型仕切弁)	2 - 1 - 5 改訂
土被り 1.2m ϕ 75～ ϕ 150	2 - 1 - 6 改訂
土被り 1.2m ϕ 200～ ϕ 250	2 - 1 - 7 改訂
土被り 1.2m ϕ 300～ ϕ 350	2 - 1 - 8
土被り 1.2m ϕ 400	2 - 1 - 9
土被り 1.2m ϕ 450	2 - 1 - 10
土被り 1.2m～1.3m ϕ 500	2 - 1 - 11
2-2. 地下式単口消火栓設置標準図	
土被り 0.6m以上 0.8m未満	2 - 2 - 1 改訂
土被り 0.8m以上	2 - 2 - 2 改訂
2-3. 水道用急速空気弁設置標準図	
土被り 0.6m以上 0.8m未満	2 - 3 - 1
土被り 0.8m以上	2 - 3 - 2
2-4. 青銅仕切弁設置標準図	
土被り 0.3m 及び 0.6m	2 - 4 - 1 改訂

管明示テープエ

① 管長4.0m／本以下



② 管長5.0m／本以上



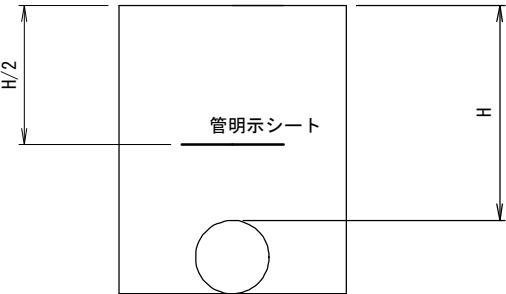
(1) テープ胴付間隔・方法

- ① 管長4.0m以下 3箇所／本（管の両端から15cm～20cmの位置と中間1箇所）
- ② 管長5.0m以上 4箇所／本（管の両端から15cm～20cmの位置と中間2箇所）
- ③ 特殊管で①、②に該当しない場合は、テープの間隔が2m以上にならないよう箇所を増やすこと
- ④ 胴巻テープは1周半とする
- ⑤ 口径50mm以下については、胴巻きは不要とする

(2) テープの仕様

- ① 材質：塩化ビニールテープ
- ② 表示及び色
地色：青系
文字：白（年号入り）
- ③ 幅及び厚さ：幅 30mm 厚さ 0.15mm ±0.03mm

管明示シートエ



(1) シート敷設方法

- ① 管明示シートは、原則として路面と水道管の間に敷設すること
- ② 管明示シートは、路盤(上層／下層)の中に入らないようにすること
- ③ 管明示シートは、管軸方向に全線敷設し蛇行してはならない
- ④ 管明示シートの接続部の重ね合わせは、50cm以上とする

(2) シートの仕様

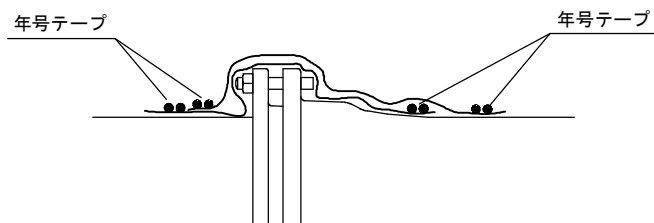
- ① 材質：アルミシート
- ② 表示及び色
地色：青／アルミ
文字：黒
- ③ 幅及び厚さ：幅 150mm 2倍折込み（ダブル）を標準とする
- ④ 表示内容

水 道 管 注 意

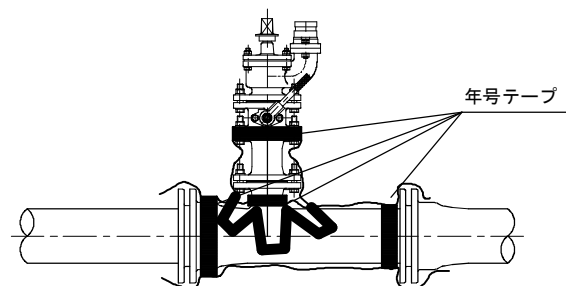
この下に水道管あり注意、立会いを求めています。

図 番	1 - 1 - 1	作成年度	H26改訂
名 称	管明示テープエ・管明示シートエ		

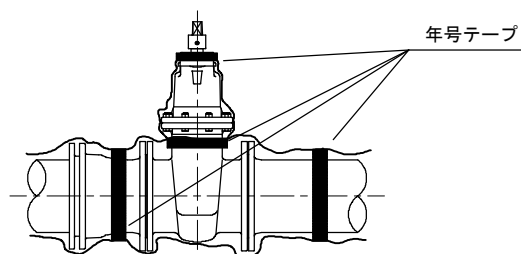
① 継手部



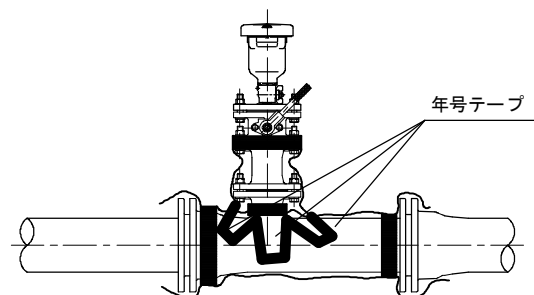
③ 消火栓部



② 仕切弁部



④ 空気弁部



(1) ポリエチレンスリーブ被覆方法

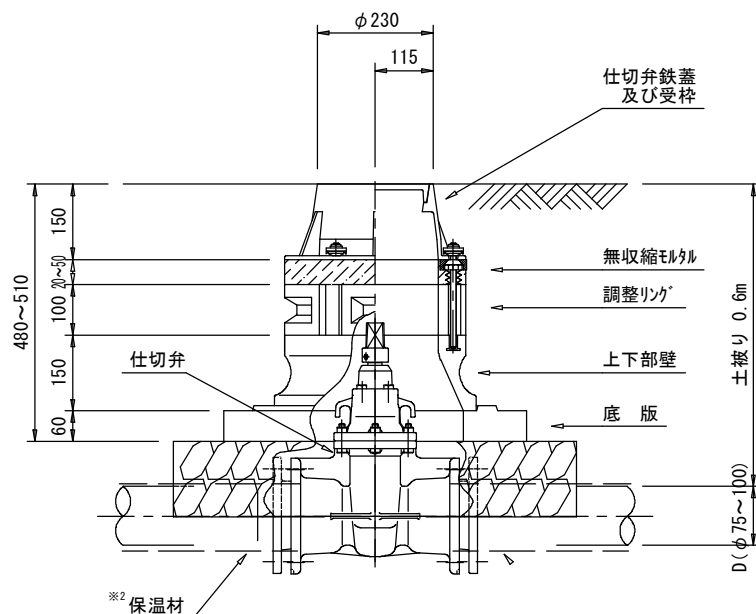
- ① ポリエチレンスリーブの被覆については、日本ダクタイル鋳鉄管協会規格（J P P A W 0 8）
ダクタイル管用ポリエチレンスリーブ施工要領書によること

(2) ポリエチレンスリーブの仕様

- ① 材 質 ： ポリエチレンスリーブ （JWWA K 158）
エポキシ樹脂粉体塗装のダクタイル鋳鉄管を使用する場合は、「粉体塗装管」の表示があるスリーブを用いること
- ② 固定具 ： 年号テープまたは防食用ポリ塩化ビニル粘着テープ （JIS Z 1901）

図 番	1 - 1 - 2	作成年度	H26改訂
名 称	ポリエチレンスリーブ被覆工		

標準図



※1 室内の埋戻しは、管が見えない程度まで行うこと。

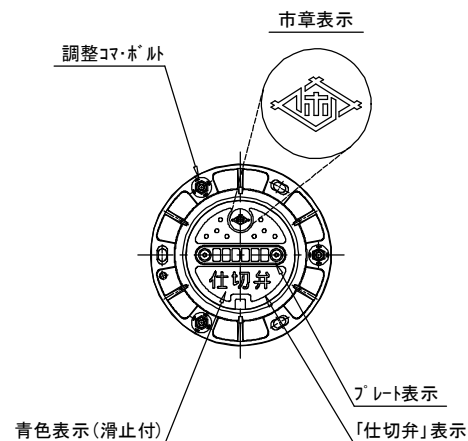
※2 ポリエチレン管、ビニル管など砂で埋戻しを行う場合であっても、室工の周りは再生砕石で行う。その際、管に保温材を巻くこと。

使用材料及び規格一覧

(1箇所当たり)

名 称	形状・寸法	数 量	規 格
【仕切弁設置工】			
水道用 [※] タイル鑄鉄仕切弁 又は、水道用ソフトソール仕切弁	φ75～φ100の仕切弁(浅埋) ※右回り開き、左回り閉じ	1 基	JWWA B 122 JWWA B 120
【仕切弁室工(円形1号)】			
設計規格:H500			
鉄蓋(調整コマ・ホルト込)	φ250×φ230×H150	1 組	JWWA B 132
調整リング(レジンコンクリート)	φ250×H100	1 組	JWWA K 148
上下部壁(レジンコンクリート)	φ250×φ350×H150	1 組	JWWA K 148
底 版	φ350×H60	1 組	JWWA K 148
無収縮モルタル		1 式	
再生砕石(RC-40)		1 式	

鉄蓋表示(参考)図



鉄蓋プレート表示



本管口径を明示する。

例) 1. 本管口径φ75の場合

[下3桁]の表示→ 075

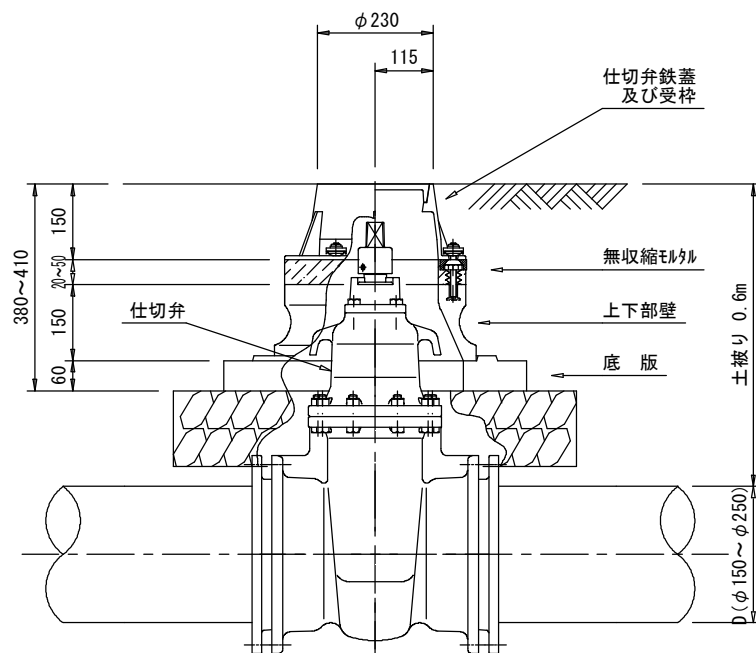
2. 本管口径φ100の場合

[下3桁]の表示→ 100

監督員より指示がある場合表示する。

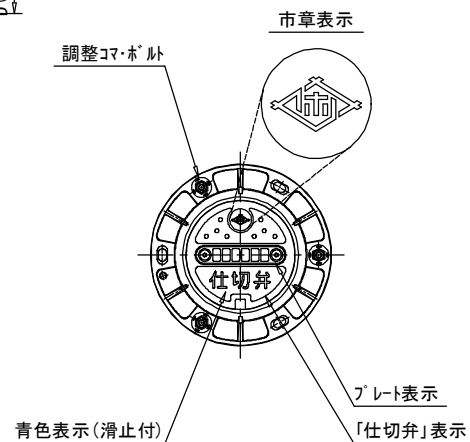
図 番	2 - 1 - 1	作成年度	H31改訂
名 称	水道用仕切弁設置標準図 (土被り0.6m φ75～φ100)		

標準図



※室内の埋戻しは、管が見えない程度まで行うこと。

鉄蓋表示(参考)図

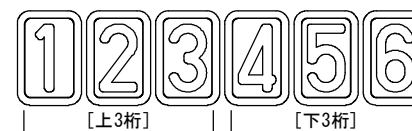


使用材料及び規格一覧

(1箇所当り)

名 称	形状・寸法	数 量	規 格
【仕切弁設置工】			
水道用 ^タ タイル鑄鉄仕切弁 又は、水道用ソフトソール仕切弁	φ150～φ250の仕切弁(浅埋) ※右回り開き, 左回り閉じ	1 基	JWWA B 122 JWWA B 120
【仕切弁室工(円形1号)】			
設計規格:H400			
鉄蓋(調整コマ・ボルト込)	φ250×φ230×H150	1 組	JWWA B 132
上下部壁(レジンコンクリート)	φ250×φ350×H150	1 組	JWWA K 148
底 版	φ350×H60	1 組	JWWA K 148
無収縮モルタル		1 式	

鉄蓋プレート表示



本管口径を明示する。

例) 1. 本管口径φ150の場合

[下3桁]の表示→ 150

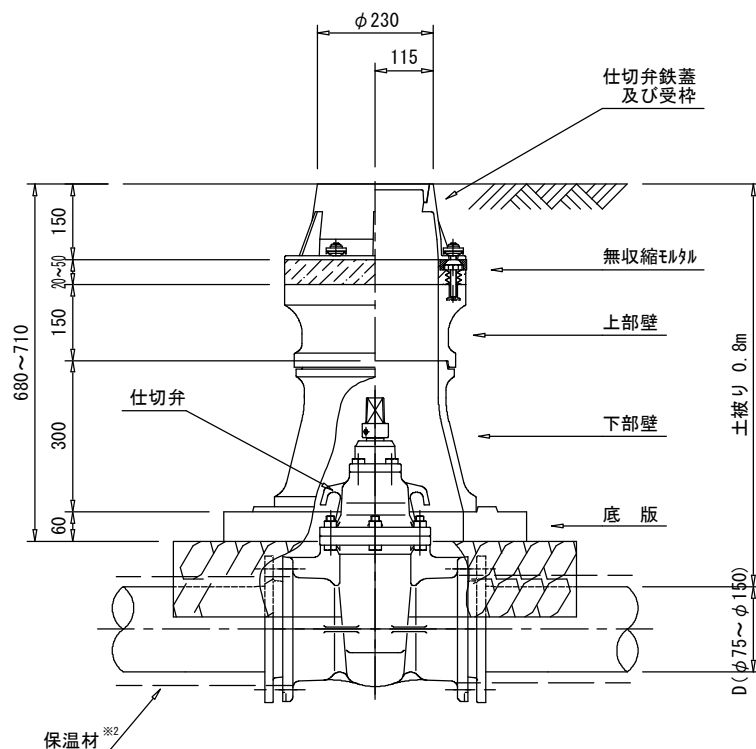
2. 本管口径φ250の場合

[下3桁]の表示→ 250

監督員より指示がある場合表示する。

図 番	2 - 1 - 2	作成年度	H31改訂
名 称	水道用仕切弁設置標準図 (土被り0.6m φ150～φ250)		

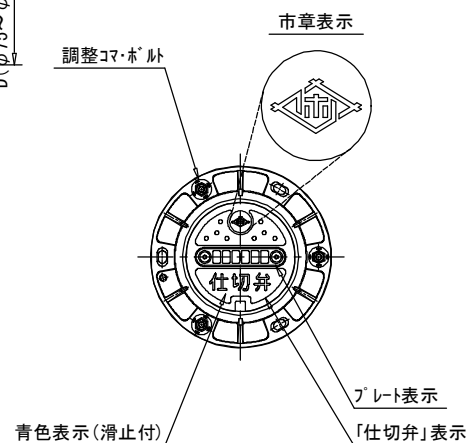
標準図



※1 室内の埋戻しは、管が見えない程度まで行うこと。

※2. ポリ塩化ビニル管、ビニル管など砂で埋戻しを行う場合であっても、室工の周りは再生砕石で行う。その際、管に保温材を巻くこと。

鉄蓋表示(参考)図



使用材料及び規格一覧

(1箇所当たり)

名 称	形状・寸法	数 量	規 格
【仕切弁設置工】			
水道用 [※] タイル鑄鉄仕切弁 又は、水道用ソフトソール仕切弁	φ75～φ150の仕切弁(浅埋) ※右回り開き, 左回り閉じ	1 基	JWWA B 122 JWWA B 120
【仕切弁室工(円形1号)】			
設計規格:H700			
鉄蓋(調整コマ・ボルト込)	φ250×φ230×H150	1 組	JWWA B 132
上部壁(レジンコンクリート)	φ250×H150	1 組	JWWA K 148
下部壁(レジンコンクリート)	φ250×φ350×H300	1 組	JWWA K 148
底 版	φ350×H60	1 組	JWWA K 148
無収縮モルタル		1 式	
再生砕石 (RC-40)		1 式	

鉄蓋プレート表示



本管口径を明示する。

例) 1. 本管口径φ75の場合

[下3桁]の表示→ 075

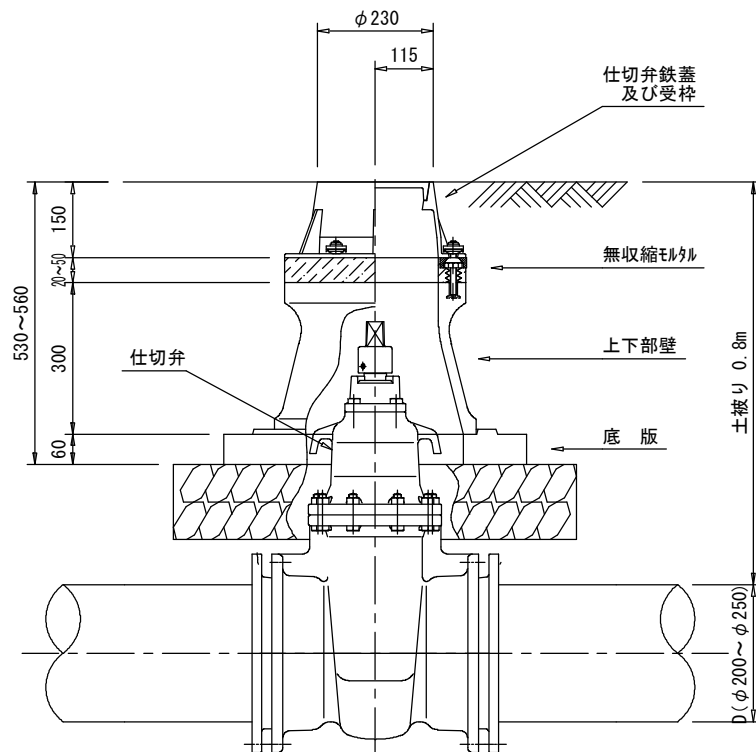
2. 本管口径φ150の場合

[下3桁]の表示→ 150

監督員より指示がある場合表示する。

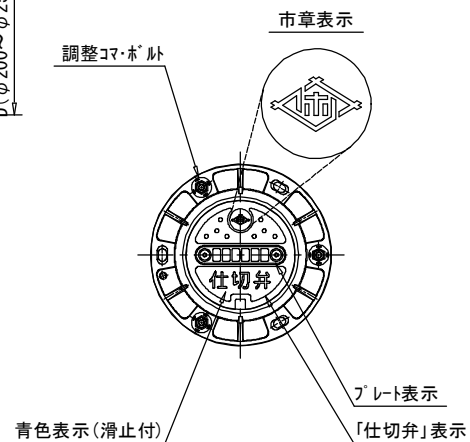
図 番	2 - 1 - 3	作成年度	H31改訂
名 称	水道用仕切弁設置標準図 (土被り0.8m φ75～φ150)		

標準図



※室内の埋戻しは、管が見えない程度まで行うこと。

鉄蓋表示(参考)図

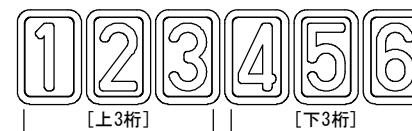


使用材料及び規格一覧

(1箇所当たり)

名 称	形状・寸法	数 量	規 格
【仕切弁設置工】			
水道用 ^タ タイル鑄鉄仕切弁 又は、水道用ソフトソール仕切弁	φ200～φ250の仕切弁(浅埋) ※右回り開き, 左回り閉じ	1 基	JWWA B 122 JWWA B 120
【仕切弁室工(円形1号)】			
鉄蓋(調整コマ・ボルト込)	φ250×φ230×H150	1 組	JWWA B 132
上下部壁(レジンコンクリート)	φ250×φ350×H300	1 組	JWWA K 148
底 版	φ350×H60	1 組	JWWA K 148
無収縮モルタル		1 式	

鉄蓋プレート表示



本管口径を明示する。

例) 1. 本管口径φ200の場合

[下3桁]の表示→**200**

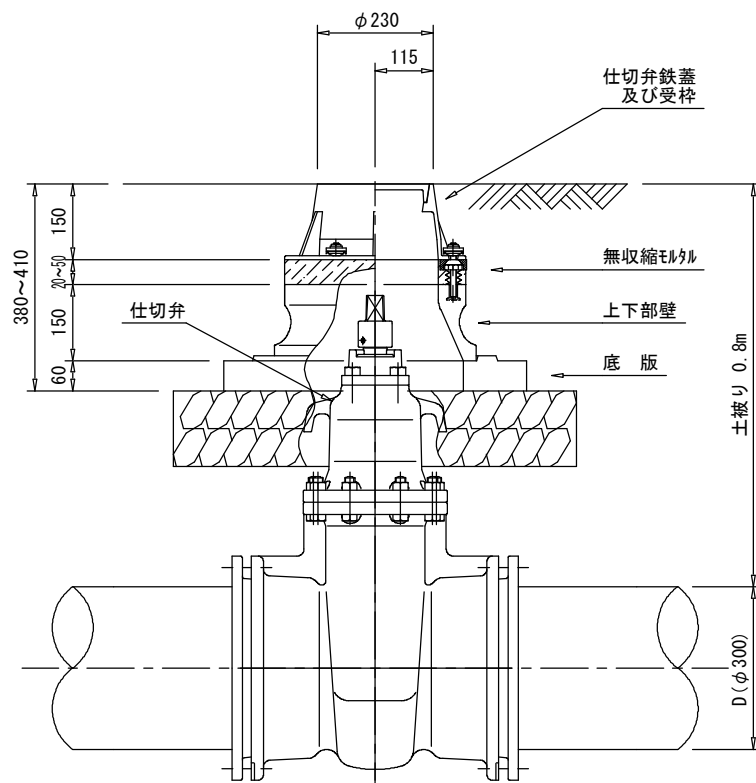
2. 本管口径φ250の場合

[下3桁]の表示→**250**

監督員より指示がある場合表示する。

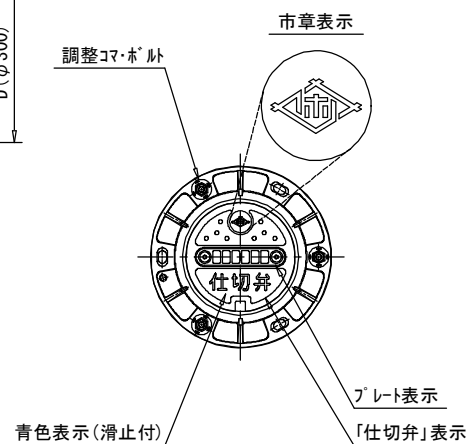
図 番	2 - 1 - 4	作成年度	H31改訂
名 称	水道用仕切弁設置標準図 (土被り0.8m φ200～φ250)		

標準図



※室内の埋戻しは、管が見えない程度まで行うこと。

鉄蓋表示(参考)図



使用材料及び規格一覧

(1箇所当たり)

名 称	形状・寸法	数 量	規 格
【仕切弁設置工】			
水道用 ^タ タイル鑄鉄仕切弁 又は、水道用ソフトソール仕切弁	φ300の仕切弁(浅埋) ※右回り開き, 左回り閉じ	1 基	JWWA B 122 JWWA B 120
【仕切弁室工(円形1号)】			
鉄蓋(調整コマ・ボルト込)	φ250×φ230×H150	1 組	JWWA B 132
上下部壁(レジンコンクリート)	φ250×φ350×H150	1 組	JWWA K 148
底 版	φ350×H60	1 組	JWWA K 148
無収縮モルタル		1 式	

鉄蓋プレート表示

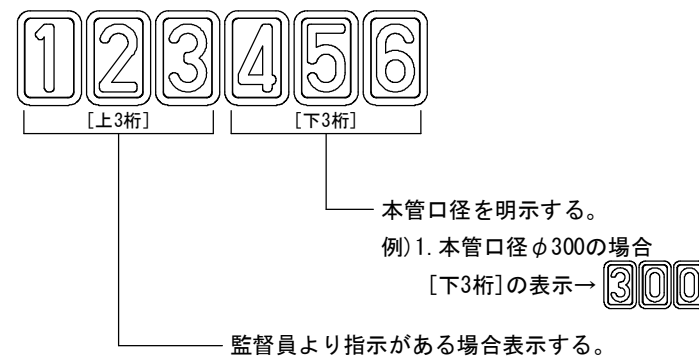
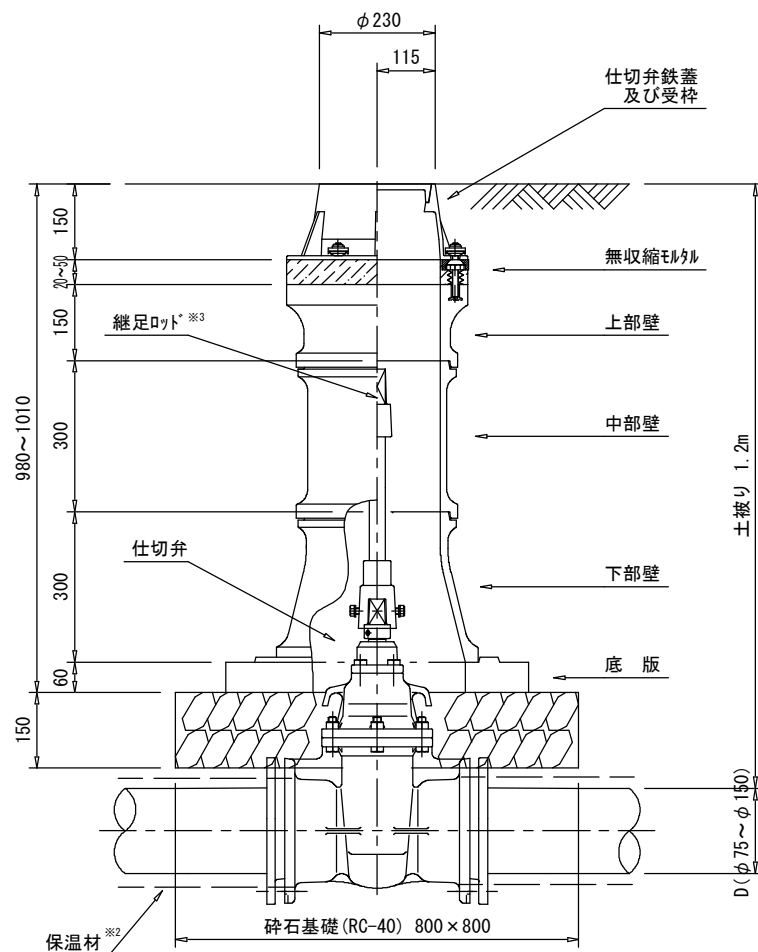


図 番	2 - 1 - 5	作成年度	H31改訂
名 称	水道用仕切弁設置標準図 (土被り0.8m φ300)		

標準図



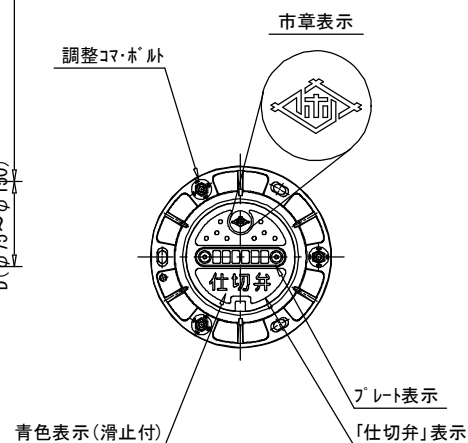
- ※1 室内の埋戻しは、管が見えない程度まで行うこと。
 ※2 ポリエチレン管、ビニル管など砂で埋戻しを行う場合であっても、室工の周りは再生砕石で行う。
 その際、管に保温材を巻くこと。
 ※3 浅層埋設仕切弁を使用しない場合は、継足ロッドの長さを各口径-100mmとする。

使用材料及び規格一覧

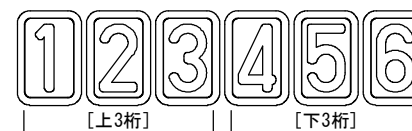
(1箇所当たり)

名称	形状・寸法	数量	規格
【仕切弁設置工】			
水道用タイル鑄鉄仕切弁 又は、水道用ソフトソール仕切弁	φ75～φ150の仕切弁 ※右回り開き、左回り閉じ	1 基	JWWA B 122 JWWA B 120
継足ロッド φ32 (SUS304) ※3	φ75～100:L500, φ150:L400	1 本	
【仕切弁室工 (円形1号)】			
設計規格:H1000			
鉄蓋 (調整コマ・ボルト込)	φ250×φ230×H150	1 組	JWWA B 132
上部壁 (レジンコンクリート)	φ250×H150	1 組	JWWA K 148
中部壁 (レジンコンクリート)	φ250×H300	1 組	JWWA K 148
下部壁 (レジンコンクリート)	φ250×φ350×H300	1 組	JWWA K 148
底版	φ350×H60	1 組	JWWA K 148
無収縮モルタル		1 式	
再生砕石 (RC-40)		1 式	

鉄蓋表示 (参考) 図



鉄蓋プレート表示



本管口径を明示する。

例) 1. 本管口径φ75の場合

[下3桁]の表示→ 075

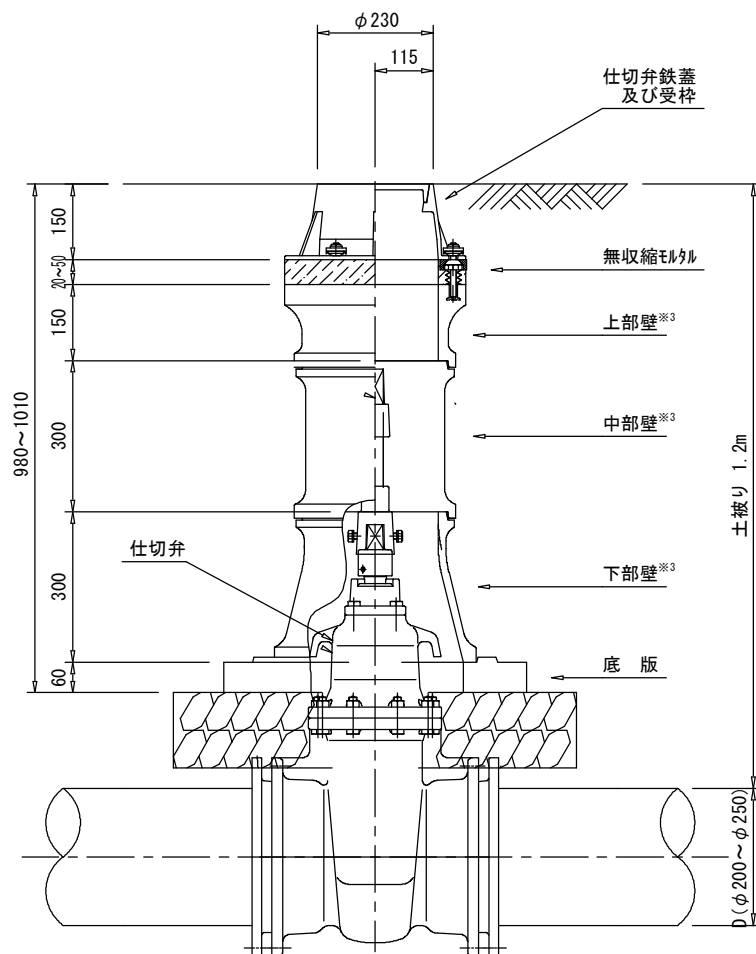
2. 本管口径φ150の場合

[下3桁]の表示→ 150

監督員より指示がある場合表示する。

図 番	2 - 1 - 6	作成年度	H31改訂
名 称	水道用仕切弁設置標準図 (土被り1.2m φ75～φ150)		

標準図



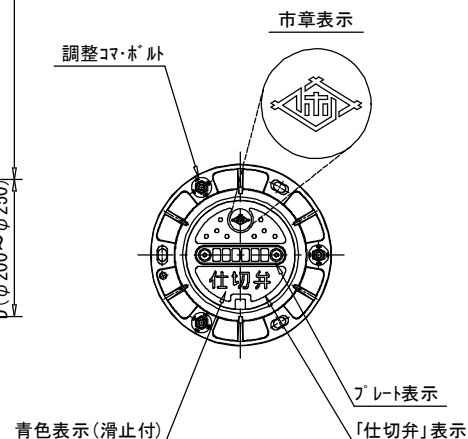
- ※1. 室内の埋戻しは、管が見えない程度まで行うこと。
 ※2. 浅層埋設仕切弁を使用する場合は、継足ロッドを使用するものとする。(継足ロッド：SUS304 φ32 L300)
 ※3. 浅層埋設仕切弁を使用しない場合は、中間壁又は調整リングを追加し調整する。(調整高：-200mm)

使用材料及び規格一覧

(1箇所当り)

名 称	形状・寸法	数 量	規 格
【仕切弁設置工】			
水道用タイル鑄鉄仕切弁 又は、水道用ソフトール仕切弁	φ200～φ250の仕切弁 ※右回り開き、左回り閉じ	1 基	JWWA B 122 JWWA B 120
継足ロッド φ32 (SUS304) ※2	φ200～250:L300	必要に応じて	
【仕切弁室工 (円形1号)】			
鉄蓋 (調整コ・ボルト込)	φ250×φ230×H150	1 組	JWWA B 132
上部壁 (レジンコンクリート) ※3	φ250×H150	1 組	JWWA K 148
中部壁 (レジンコンクリート) ※3	φ250×H300	1 組	JWWA K 148
下部壁 (レジンコンクリート) ※3	φ250×φ350×H300	1 組	JWWA K 148
底 版	φ350×H60	1 組	JWWA K 148
無収縮モルタル		1 式	

鉄蓋表示 (参考) 図



鉄蓋プレート表示

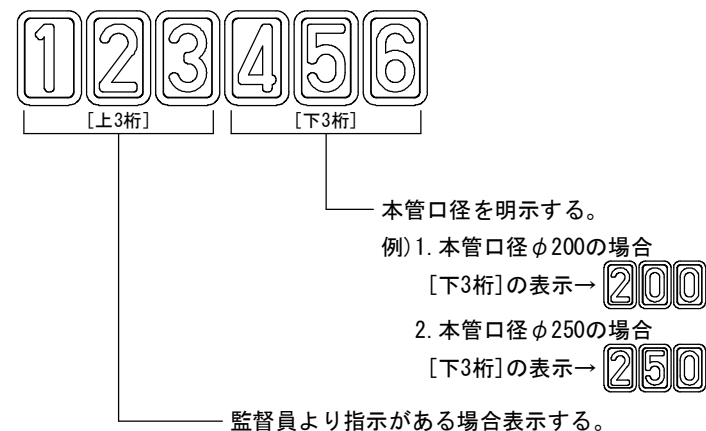
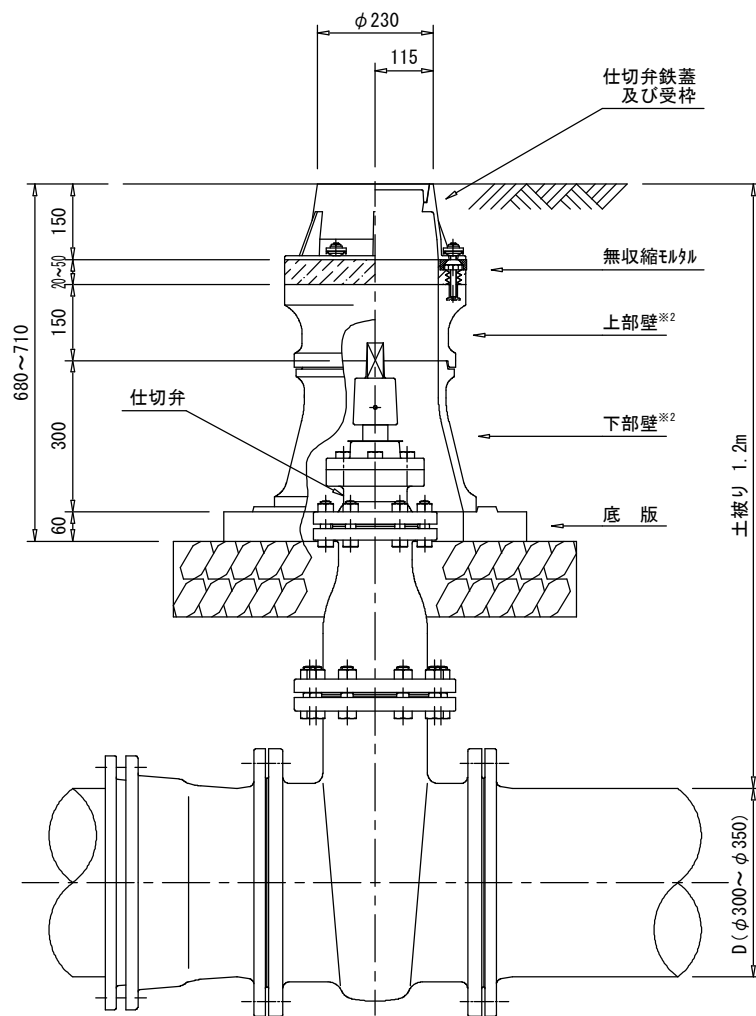


図 番	2 - 1 - 7	作成年度	H31改訂
名 称	水道用仕切弁設置標準図 (土被り1.2m φ200～φ250)		

標準図



※1. 室内の埋戻しは、管が見えない程度まで行うこと。

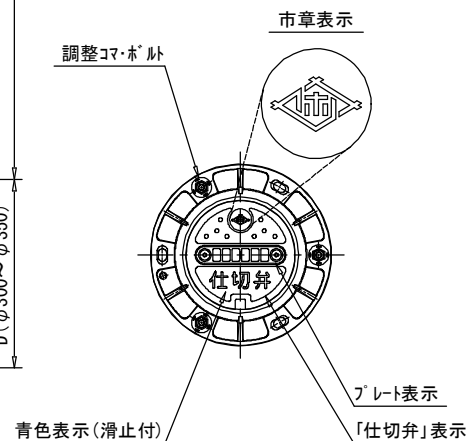
※2. 浅層埋設仕切弁を使用する場合は、中間壁又は調整リングを追加し調整する。(調整高：+200mm)

使用材料及び規格一覧

(1箇所当たり)

名称	形状・寸法	数量	規格
【仕切弁設置工】			
水道用 [※] タイル鑄鉄仕切弁 又は、水道用ソフトソール仕切弁	φ300～φ350の仕切弁 ※右回り開き、左回り閉じ	1基	JWWA B 122 JWWA B 120
【仕切弁室工(円形1号)】			
設計規格:H700			
鉄蓋(調整コ・ボルト込)	φ250×φ230×H150	1組	JWWA B 132
上部壁(レジンコンクリート)※2	φ250×H150	1組	JWWA K 148
下部壁(レジンコンクリート)※2	φ250×φ350×H300	1組	JWWA K 148
底板	φ350×H60	1組	JWWA K 148
無収縮モルタル		1式	

鉄蓋表示(参考)図



鉄蓋プレート表示

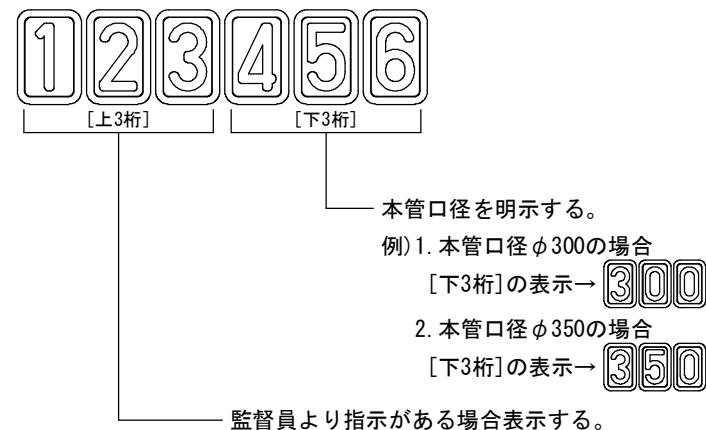
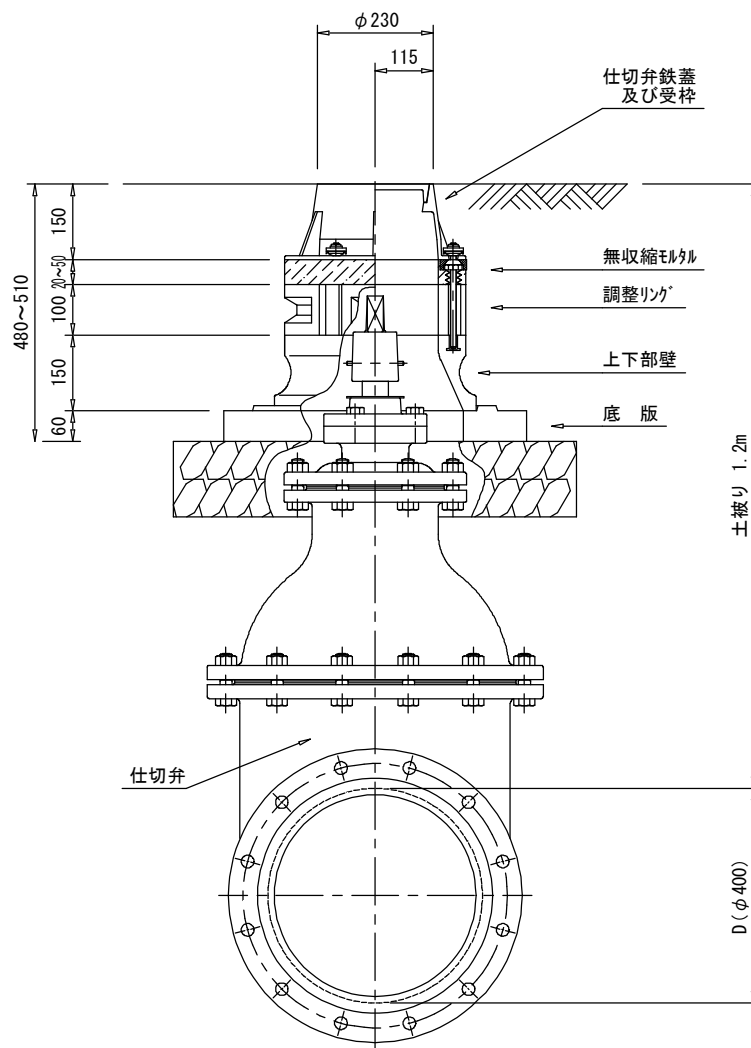


図 番	2 - 1 - 8	作成年度	H26改訂
名 称	水道用仕切弁設置標準図 (土被り1.2m φ300～φ350)		

標準図



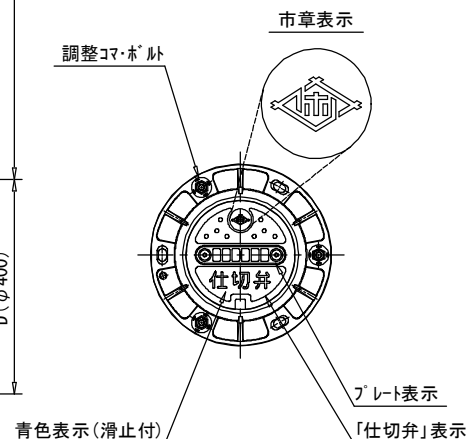
※1. 室内の埋戻しは、管が見えない程度まで行うこと。

使用材料及び規格一覧

(1箇所当たり)

名 称	形状・寸法	数 量	規 格
【仕切弁設置工】			
水道用 ^ダ タイル鑄鉄仕切弁 又は、水道用ソトソール仕切弁	φ400の仕切弁 ※右回り開き、左回り閉じ	1 基	JWWA B 122 JWWA B 120
【仕切弁室工(円形1号)】			
設計規格:H500			
鉄蓋(調整コ・ホルト込)	φ250×φ230×H150	1 組	JWWA B 132
調整リング(レジンコンクリート)	φ250×H100	1 組	JWWA K 148
上下部壁(レジンコンクリート)	φ250×φ350×H150	1 組	JWWA K 148
底 版	φ350×H60	1 組	JWWA K 148
無収縮モルタル		1 式	

鉄蓋表示(参考)図



鉄蓋プレート表示

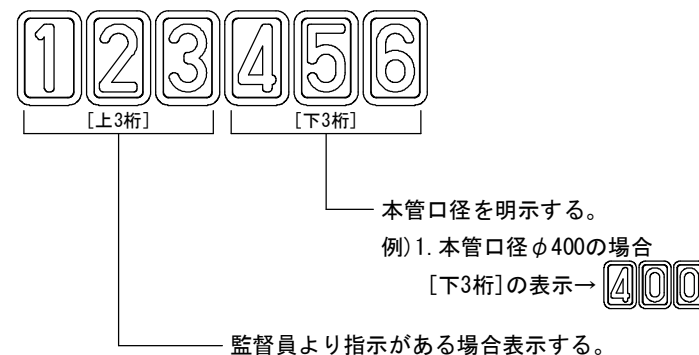
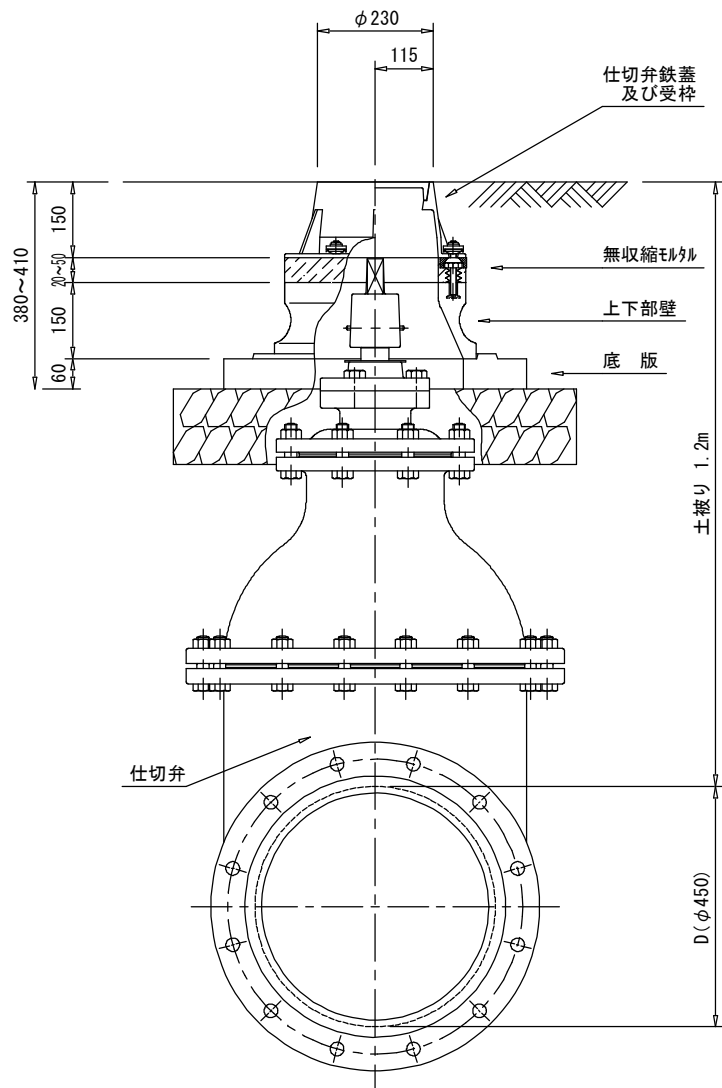


図 番	2 - 1 - 9	作成年度	H26改訂
名 称	水道用仕切弁設置標準図 (土被り1.2m φ400)		

標準図



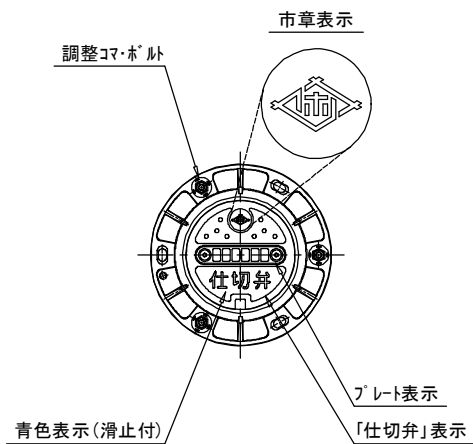
※1. 室内の埋戻しは、管が見えない程度まで行うこと。

使用材料及び規格一覧

(1箇所当り)

名 称	形状・寸法	数 量	規 格
【仕切弁設置工】			
水道用ダクタイル鋳鉄仕切弁 又は、水道用ソトシル仕切弁	φ450の仕切弁 ※右回り開き, 左回り閉じ	1 基	JWWA B 122 JWWA B 120
【仕切弁室工(円形1号)】	設計規格:H400		
鉄蓋(調整コ・ボルト込)	φ250×φ230×H150	1 組	JWWA B 132
上下部壁(レジンコンクリート)	φ250×φ350×H150	1 組	JWWA K 148
底 版	φ350×H60	1 組	JWWA K 148
無収縮モルタル		1 式	

鉄蓋表示(参考)図



鉄蓋プレート表示

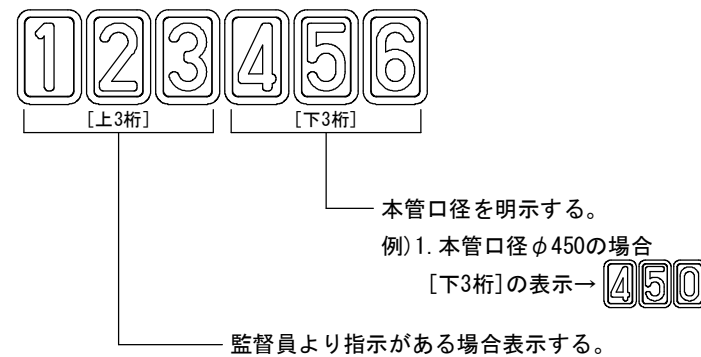
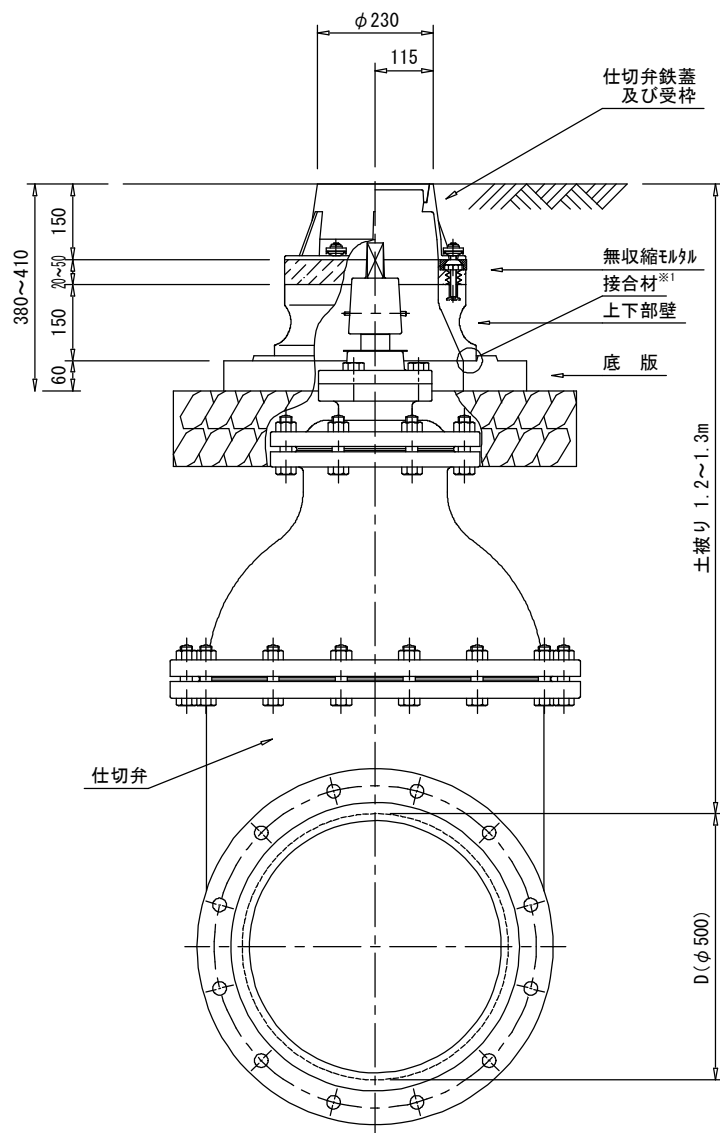


図 番	2 - 1 - 10	作成年度	H26改訂
名 称	水道用仕切弁設置標準図 (土被り1.2m φ450)		

標準図



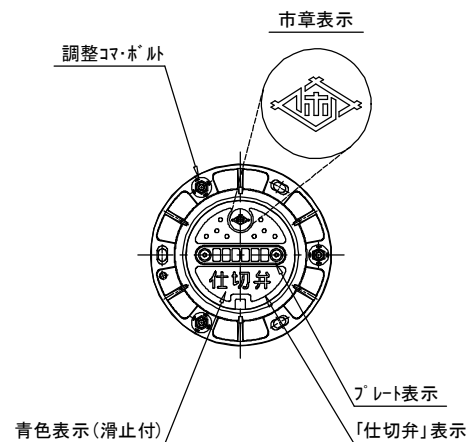
※1. 室内の埋戻しは、管が見えない程度まで行うこと。

使用材料及び規格一覧

(1箇所当り)

名 称	形状・寸法	数 量	規 格
【仕切弁設置工】			
水道用 [※] タイル鑄鉄仕切弁 又は、水道用ソフトソール仕切弁	φ500の仕切弁 ※右回り開き、左回り閉じ	1 基	JWWA B 122 JWWA B 120
【仕切弁室工 (円形1号)】			
鉄蓋 (調整コマ・ボルト込)	φ250×φ230×H150	1 組	JWWA B 132
上下部壁 (レジンコンクリート)	φ250×φ350×H150	1 組	JWWA K 148
底 版	φ350×H60	1 組	JWWA K 148
無収縮モルタル		1 式	

鉄蓋表示 (参考) 図



鉄蓋プレート表示

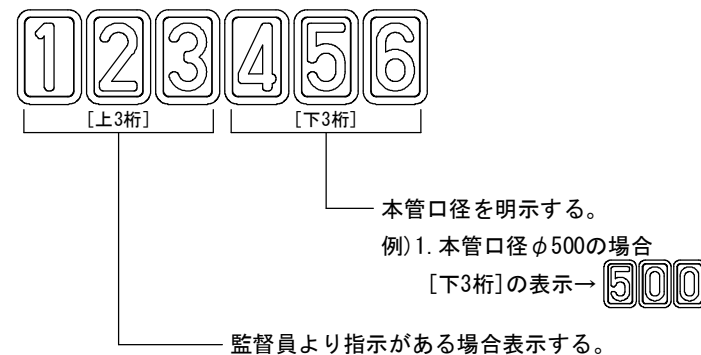
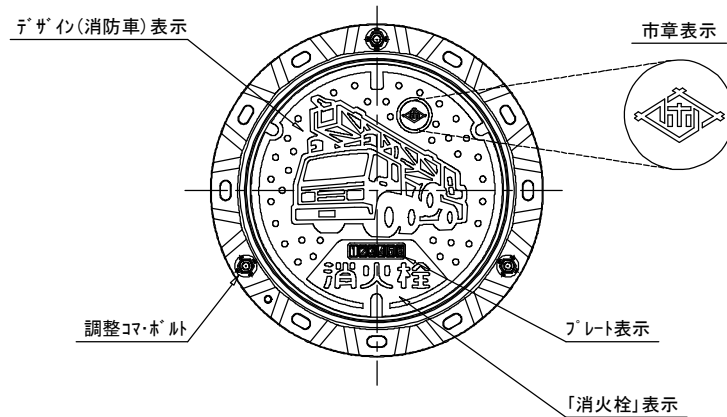
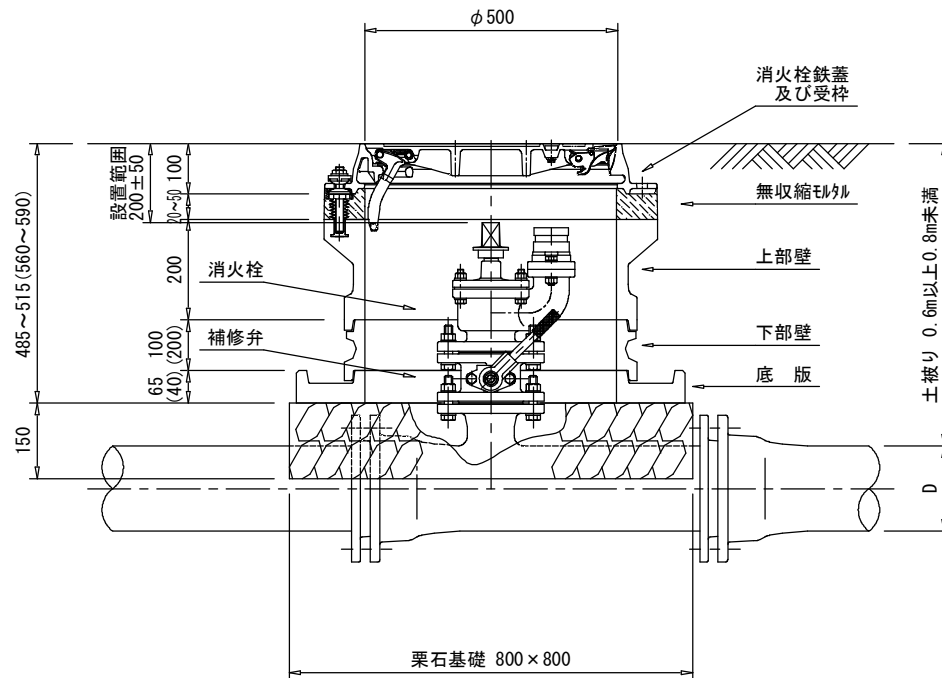


図 番	2 - 1 - 11	作成年度	H26改訂
名 称	水道用仕切弁設置標準図 (土被り1.2~1.3m φ500)		

鉄蓋表示(参考)図



標準図



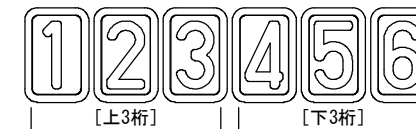
※1. 補修弁の操作ができるように、室の設置を行うこと。

使用材料及び規格一覧

(1箇所当たり)

名 称	形状・寸法	数 量	規 格
【消火栓設置工】			
地下式単口消火栓	φ75以下の単口消火栓	1 基	JWWA B 103
補修弁	φ75	1 基	JWWA B 126
【消火栓室工(円形3号)】			
設計規格	H500(又は、H600)		
鉄蓋(調整コマ・ボルト込)	φ500×H100	1 組	JWWA B 132
上部壁(レジンコンクリート)	φ500×H200	1 組	JWWA K 148
下部壁(レジンコンクリート)	φ500×H100(又は、H200)	1 組	JWWA K 148
底 版	φ500×H65(又は、H40-2分割)	1 組	JWWA K 148
無収縮モルタル		1 式	
基礎(栗石基礎)	800×800(厚さ150)	0.64 m ²	JIS A 5006

鉄蓋プレート表示



本管口径を明示する。

例) 1. 本管口径φ75の場合

[下3桁]の表示→ 075

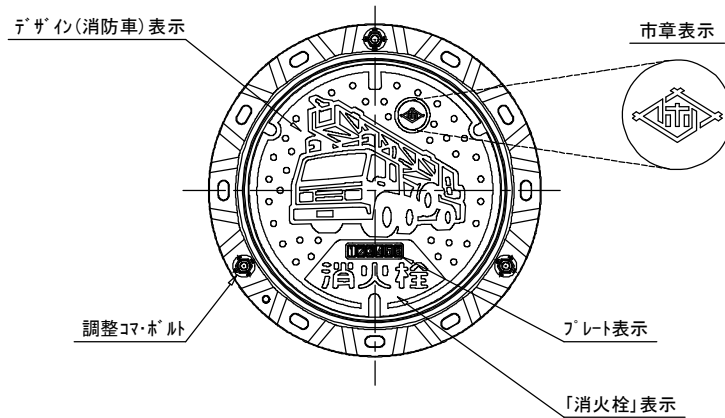
2. 本管口径φ150の場合

[下3桁]の表示→ 150

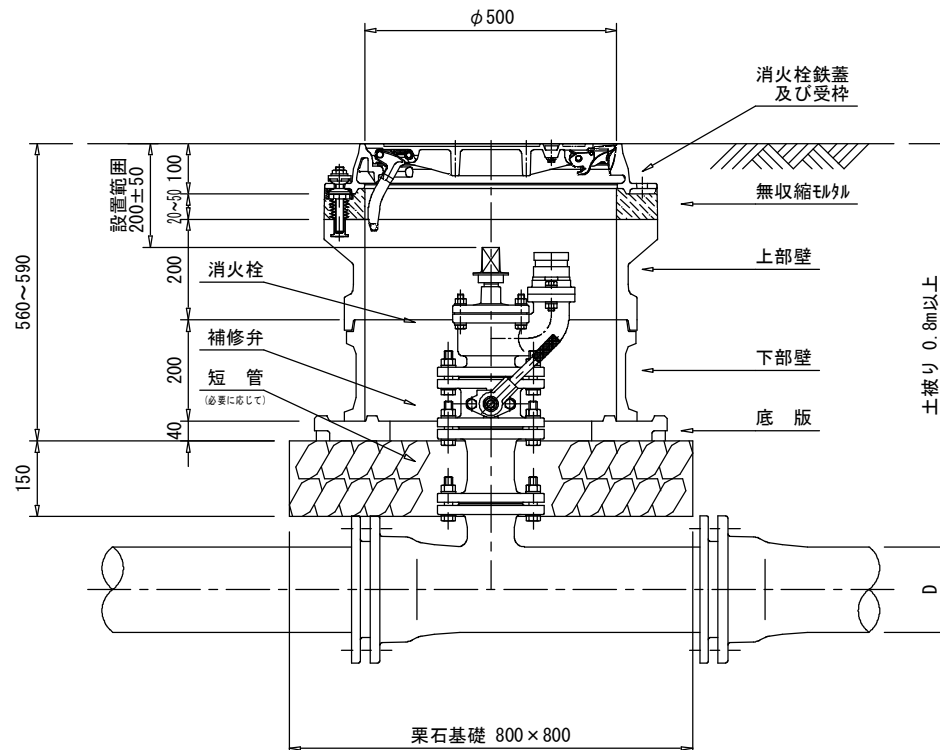
監督員より指示がある場合表示する。

図 番	2 - 2 - 1	作成年度	H31改訂
名 称	地下式単口消火栓設置標準図 (土被り0.6m以上0.8未満)		

鉄蓋表示(参考)図



標準図



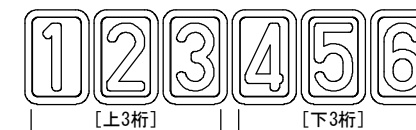
※1. 補修弁の操作ができるように、室の設置を行うこと。

使用材料及び規格一覧

(1箇所当り)

名 称	形状・寸法	数 量	規 格
【消火栓設置工】			
地下式単口消火栓	φ75以下の単口消火栓	1 基	JWWA B 103
補修弁	φ75	1 基	JWWA B 126
短 管(設置高調整用)	φ75×L100～500	必要に応じて	JWWA G 114
【消火栓室工(円形3号)】	設計規格:H600		
鉄蓋(調整コ・ボルト込)	φ500×H100	1 組	JWWA B 132
上部壁(レゾンコンクリート)	φ500×H200	1 組	JWWA K 148
下部壁(レゾンコンクリート)	φ500×H200	1 組	JWWA K 148
底 版	φ500×H40	1 組	JWWA K 148
無収縮モルタル		1 式	
基礎(栗石基礎)	800×800(厚さ150)	0.64 m ²	JIS A 5006

鉄蓋プレート表示



— 本管口径を明示する。

例) 1. 本管口径 $\phi 75$ の場合

[下3桁]の表示→ 

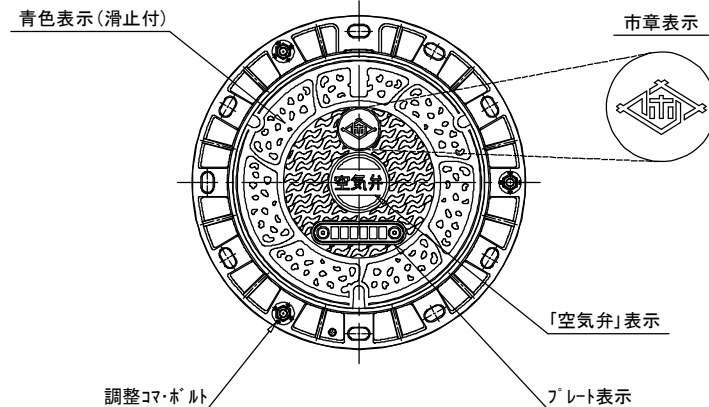
2. 本管口径 $\phi 150$ の場合

[下3桁]の表示→ **150**

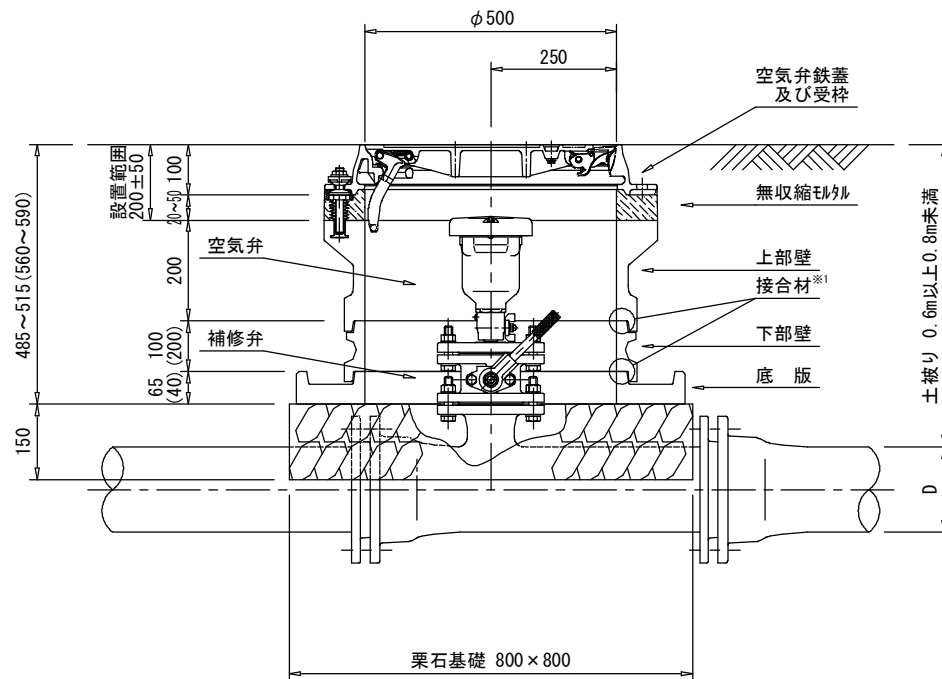
— 監督員より指示がある場合表示する。

図 番	2 - 2 - 2	作成年度	H31改訂
名 称	地下式単口消火栓設置標準図 (土被り0.8m以上)		

鉄蓋表示(参考)図



標準図



※1. 補修弁の操作ができるように、室の設置を行うこと。

使用材料及び規格一覧

(1箇所当たり)

名 称	形状・寸法	数 量	規 格
【消火栓設置工】			
水道用急速空気弁	φ75以下の空気弁(消火栓付)	1 基	JWWA B 137
補修弁	φ75	1 基	JWWA B 126
【空気弁室工(円形3号)】			
鉄蓋(調整コマ・ボルト込)	設計規格:H500(又は,H600)		
上部壁(レジンコンクリート)	φ500×H200	1 組	JWWA K 148
下部壁(レジンコンクリート)	φ500×H100(又は,H200)	1 組	JWWA K 148
底 版	φ500×H65(又は,H40-2分割)	1 組	JWWA K 148
無収縮モルタル		1 式	
基礎(栗石基礎)	800×800(厚さ150)	0.64 m ²	JIS A 5006

鉄蓋プレート表示



本管口径を明示する。

例) 1. 本管口径φ75の場合

[下3桁]の表示→ 075

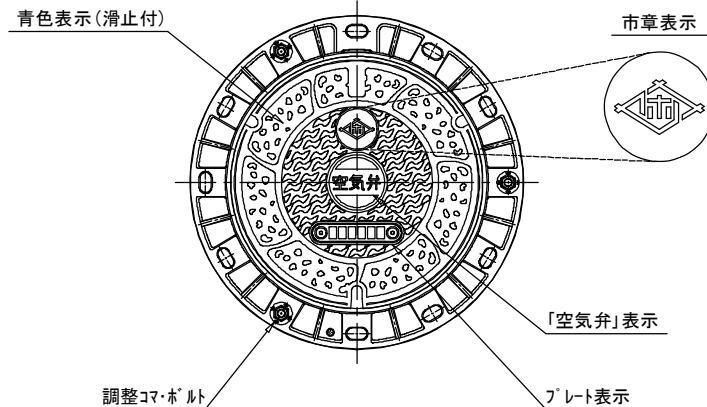
2. 本管口径φ150の場合

[下3桁]の表示→ 150

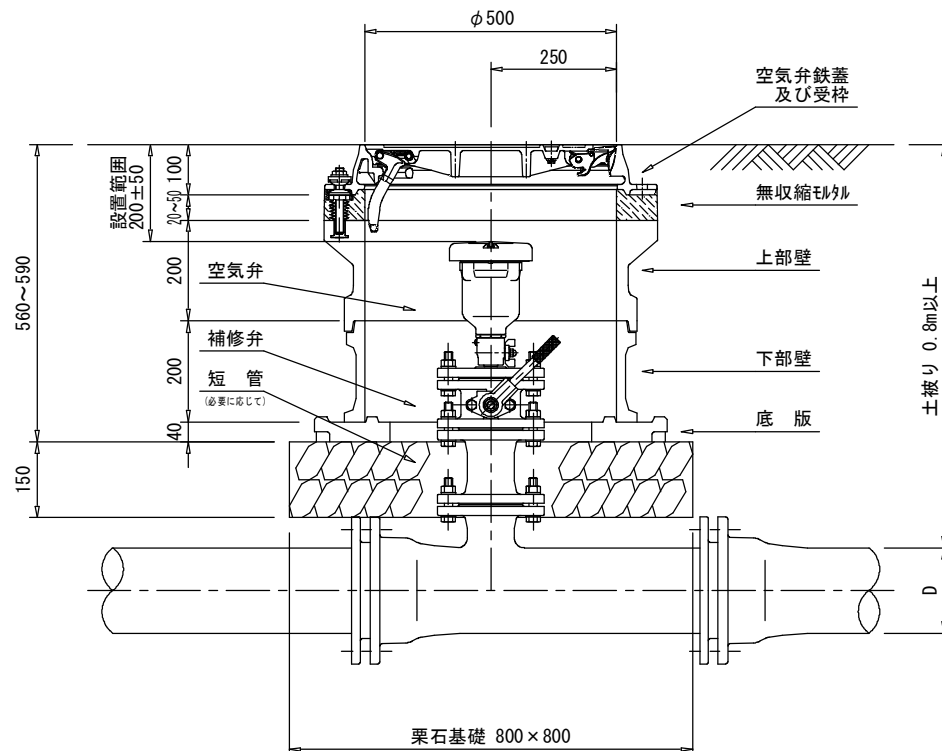
監督員より指示がある場合表示する。

図 番	2 - 3 - 1	作成年度	H26改訂
名 称	水道用急速空気弁設置標準図 (土被り0.6m以上0.8未満)		

鉄蓋表示(参考)図



標準図



※1. 補修弁の操作ができるように、室の設置を行うこと。

使用材料及び規格一覧

(1箇所当たり)

名 称	形状・寸法	数 量	規 格
【消火栓設置工】			
水道用急速空気弁	φ75以下の空気弁(消火栓付)	1 基	JWWA B 137
補修弁	φ75	1 基	JWWA B 126
短 管(設置高調整用)	φ75×L100~500	必要に応じて	JWWA G 114
【消火栓室工(円形3号)】			
鉄蓋(調整コマ・ボルト込)	設計規格:H600		
上部壁(レジンコンクリート)	φ500×H200	1 組	JWWA K 148
下部壁(レジンコンクリート)	φ500×H200	1 組	JWWA K 148
底 版	φ500×H40	1 組	JWWA K 148
無収縮モルタル		1 式	
基礎(栗石基礎)	800×800(厚さ150)	0.64 m ²	JIS A 5006

鉄蓋プレート表示



本管口径を明示する。

例) 1. 本管口径φ75の場合

[下3桁]の表示→ 075

2. 本管口径φ150の場合

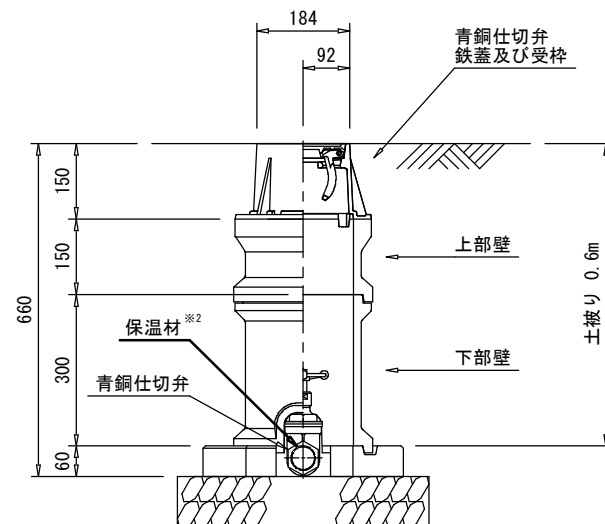
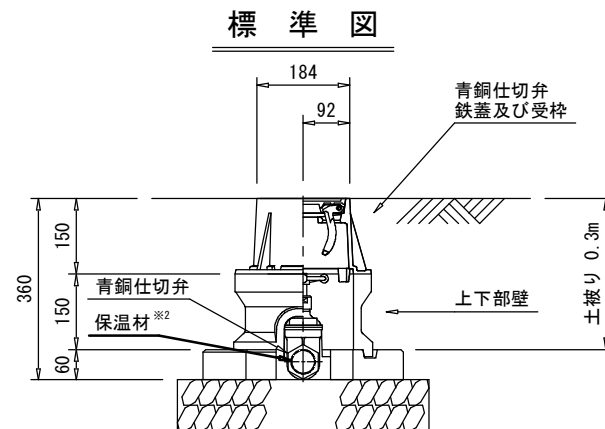
[下3桁]の表示→ 150

監督員より指示がある場合表示する。

図 番	2 - 3 - 2	作成年度	H26改訂
名 称	水道用急速空気弁設置標準図 (土被り0.8m以上)		

使用材料及び規格一覧

(1箇所当たり)



※1 室内の埋戻しは、管が見えない程度まで行うこと。

※2 ホリパイプ、ビニル管など砂で埋戻しを行う場合であっても、室工の周りは再生砕石で行う。
その際、管に保温材を巻くこと。

名 称	形状・寸法	数 量	規 格
【青銅仕切弁設置工】			
青銅仕切弁	φ50以下の青銅仕切弁	1 基	設計図書による
【青銅仕切弁室工】			
鉄 蓋	設計規格:H400		
鉄 蓋	φ200×H150	1 組	JWWA B 132 に準ずる
上下部壁 (レジンコンクリート)	φ250×H150	1 組	JWWA K 148 に準ずる
底 版	φ350×H60	1 組	JWWA K 148 に準ずる
再生砕石 (RC-40)		1 式	
【青銅仕切弁室工】			
鉄 蓋	設計規格:H700		
鉄 蓋	φ200×H150	1 組	JWWA B 132 に準ずる
上部壁 (レジンコンクリート)	φ250×H150	1 組	JWWA K 148 に準ずる
下部壁 (レジンコンクリート)	φ250×H300	1 組	JWWA K 148 に準ずる
底 版	φ350×H60	1 組	JWWA K 148 に準ずる
再生砕石 (RC-40)		1 式	

鉄蓋表示(参考)図

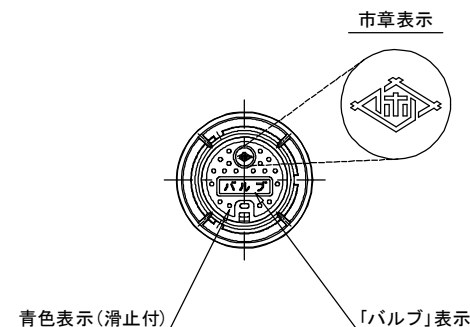


図 番	2 - 4 - 1	作成年度	H31改訂
名 称	青銅仕切弁設置標準図 (土被り0.3m及び0.6m)		

付7. 継手チェックシートについて

継手チェックシートは、管種・継手に合わせて各協会、各メーカーなどが発行しているもの（下記参考）を使用する。なお、使用するチェックシートは、施工計画書に添付し、監督員の承諾を得ること。

（参考）

NS形継手

GX形継手

K形継手

⇒ 日本ダクタイル鉄管協会など

融着継手

⇒ 配水用ポリエチレンパイプシステム協会など

冷間継手

伸縮可とう離脱防止継手

その他の継手

⇒ 各協会、各メーカーなど